		(数	数 学 A)		学習指導案	
日時		6月10日(金)第1時限		指導者		
学級		2 年 農業土木科		教室	選択教室 1	
単 元		第1章 場合の数と確率		教科書	改訂版 高校の数学A(数研出版)	
指導計画時間配当		第2節確率 1.事象と確率 2確率の計算				
本時の 指導目標		排反事象の確率が求められるように理解させる。特に「2つの玉が同じ色」という事が2つの事象A「2つとも赤玉」と事象B「2つとも白玉」に分けることで確率が求めやすくなることを理解させる。				
前時の		例題2、練習6を復習しておく。				
'	、題					
茈	、虺	!	時間	指道	 上の留意事項	評価の方法・基準、資料等
本時の指導過程	導入	前時の課題と本時の目標の確認をする。	5分	111-41.	工作品心子入	川川ッパム 生土(東平)
	展開	1 例3を説明する。 1 個のさいころを投げるとき、「2の目が出る」または「奇数の目が出る」確率を求める。 2 例題3を説明する。 赤玉5個と白玉3個入った袋から、玉を2個同時に取り出す。 2個とも同じ色が出る確率を求めよ。 3 練習7を解かせる。 1個のさいころを投げるとき、(1) 4の目が出る確率 (2) 3の倍数の目が出る確率 (2) 3の倍数の目が出る確率 (3) 4の目または3の倍数の目が出る確率 (3) 4の目または3の倍数の目が出る確率 (3) 4の目または3の倍数の目が出る確率 (3) 4の目または3の倍数の目が出る確率 (3) 4の目を対しる。 大田2個とも同じ色が出る確率を求めまた。 5 練習9を解かせる。 大小2個のさいころを投げるとき目の和が5の倍数になる確率。	ないら 事は事け解 机解 机解 机	ない。れ 事は事け解 れ解 事確る 12A 事事象でさ 間状 間状 指況 指別 に り に り に り に り に り に り に り に り に り に	を行い、生徒の理 確認する。 を行い、生徒の理	排反事象についての定義や性質について理解することができる。 (知識・理解) 排反事象についての定義や性質について理解することができる。 (知識・理解) 排反事象の確率が2つの確率の和で求められることを使って求めることができる。 (表現・処理、数学的な考え方) 自力で問題が解ける。 (知識・理解)
	整理	本時のまとめと次時の予告をする。	5分			
次問	-	余事象「・・・でない。」「少なくとも・・・」について調べてくる。				
課題		生徒数 18 名 (男子 18 名)				
川	· つ	工作外 10 4 (刀) 10 47				